Medical and Pharmaceutical Society for WAKAN-YAKU

Ⅱ－A－4

当科における漢方診療の現状と評価

大阪医科大学　第一内科

○吉田麻美、渋谷知宣、増井義一、筧紘一、福田市蔵、大澤伸昭

【目的と方法】　現在本邦において、漢方診療の有用性を西洋医学的に評価することが、要求されている。それに対応する第一段階として、われわれは当科外来患者に対し、適応と考えられる症例について、証に関係なく漢方製剤（エキス剤）を投与し、その有用性を検討した。対象は、平成２年５月から３年４月までの１年間に、当科外来を受診した全患者のうち、漢方製剤（エキス剤）を投与した８１０例の患者である。

【結果】　処方は４７種であり、全体としては、有効23.5%　やや有効17.4%　不変28.4%　増悪10.4%　副作用2.3 %であった。

また、頻用処方は、①小柴胡湯（ＴＪ－9）231例（28.5%）②加味逍遙散（ＴＪ－24）73例(9.0%）③牛車腎気丸（ＴＪ－107）63 例（7.8 %）④柴苓湯（ＴＪ－114）59 例(7.3%）⑤芍薬甘草湯（ＴＪ－68）56例（6.9 %）⑥柴朴湯（ＴＪ－96）56例（6.9 %）であった。それぞれ①慢性肝炎　②不定愁訴　③糖尿病性神経障害　④慢性肝炎　⑤こむらがえり　⑥気管支喘息に頻用されており、その有効率は、①12.6%　②38.4%　③20.4%　④10.2%　⑤60.7%　⑥21.4%であり、やや有効　①10.8%　②16.4%　③19.1%　④11.8%　⑤21.4%　⑥19.6%　不変　①41.6%　②17.8%　③33.3%　④42.4%　⑤1.8 %　⑥30.3%　増悪　①18.2%　②2.7 %　③3.2 %　④20.3%　⑤7.1 %　⑥1.8 %　副作用　①1.3 %　②1.4 %　③6.4 %　④3.4 %　⑤1.8 %　⑥3.6 %であった。

【結論】　以上の成績より漢方製剤（エキス剤）による治療が、西洋医学的に評価しうる可能性を示唆するものと考えられる。

NII-Electronic Library Service